

平成 31 年 2 月 16 日

北関東フォーラム

於：シムックス

**中斎塾 北関東フォーラム**  
**平成 31 年度 第 2 回**

**不易と流行 — 新しいものを取り入れる**

皆様の御手元に『陽明学のすすめⅦ 人間学講話 佐藤一斎』が置いてあります。是非お読み戴いて、良かったらお知り合いに勧めて戴ければ有難く存じます。

新刊本を差し上げた方から色々な反響がありました。学ぶ事が好きな人、学ぶ事を仕事にしているような方は結構難しい所も読みこなしておられるようですが、そうでない方には、難しい所は飛ばして私の解説している所だけ読んで下さいと申し上げています。

以前書いた『陽明学のすすめⅢ 人間学講話 山田方谷』再版することになり、誤字脱字の見直しをしておりましたら、その中でネバダレポートについて書いてありました。ご記憶の方もおられると思います。この時は民主党が政権をとった頃ですが、今のご時世に合いそうですので御紹介します。

日本が経済破綻を起こした場合という想定のもとに、ネバダレポートというものが出ています。これは約八年前に、国会で当時の柳沢金融再生担当大臣が発表したもので、IMF の調査団と日本の閣僚の合作だと言われるものです。

- ・公共事業は凍結をする。
- ・国家公務員・地方公務員の給料は 30%カット、ボーナスは例外なくカットする。
- ・公務員の退職金は全額認めない。
- ・年金は 3 割カットする。
- ・消費税を 20%にする。
- ・年収が 100 万円の方からも税金の徴収を始める。
- ・資産税を導入する。
- ・銀行に預けてある預金については、一律 3 割没収する。

これが国会で発表されたネバダレポートの中身です。

ちなみに、日本で資産税（財産税）の徴収が行われたのは終戦直後、大金持ちは持って

いた財産の9割を国に没収されました。華族が税金を払うために持っていた土地をどんどん売ったので、ピストル堤や強盗慶太と呼ばれるような人達が土地をあちこちから買い占めた時代です。その頃の手法は、手金をうって権利書を預かったら直ぐに売ってしまう。当然元の持ち主は怒って裁判になりますが、暫く裁判で揉めて、和解をする時には、転売先から貰ったお金で残りの金額を払う・・・そうやって、どんどん土地を増やしていったようです。

更に、ネバダレポートを踏まえて、60数年前の終戦直後（昭和21年）に起きた出来事をまとめてありましたので、ご紹介します。

1月1日、天皇の人間宣言がありました。

2月1日、農地改革が実施されました。

2月17日、金融緊急措置令が出ました。・・・お金をすべて銀行に預けさせ、下ろすのは1世帯500円までとしました。更に、新円に切り替えをしたので、昔のお札は通用しなくなりました。新しいお金で世の中が動くことになったわけです。

ちなみに、イオンの創業者岡田卓也さんの姉で、岡田氏を経営者として育て上げたと言われる小島千鶴子さんについて書かれた評伝にこういう話がありました。彼女は、戦争で負けた日本はハイパーインフレが起きて今まで使っていたお金が使えなくなり新札が出る、という流れを本で読んでいて、これからこういう時代が来ると考え、直ぐに手を打ちます。一つは、有り金を集めて売れる品物に変えました。その直後、実際に新札しか使えない時代になったので、買い集めたものを一斉に売りに出したところ、新札が面白いほど集まったそうです。同時に、銀行から融資を受けて新札をかき集めました。そうやって、本で読んだ知識がそのまま功を奏し、べらぼうな金が集まったのです。それが岡田屋を一気に発展させていく元となったわけです。

ですから知識は役に立ちますね。人の知らない話を知っていて、それがその時代にぴったり功を奏した時には、会社が化けます。

ということで、財産税がらみではピストル堤や強盗慶太のような人物が現れ、緊急金融措置令ではイオンの元になる岡田屋が急成長を始めた。つまり、これからの時代を見抜いた所がどんどん伸びていったわけです。

金融緊急措置令の後に、今度は食糧に関する緊急措置令が出ました。当時の吉田茂首相は、このままでは日本国民が餓死してしまうということでマッカーサーと交渉し、アメリカから食糧を送って貰いました。ただしアメリカが送って来たのは、これだけないと日本

人は餓死してしまうと吉田茂が伝えた分量の3割程度でした。それでも日本国民は餓死しませんでした。

これには後日談がついていて、マッカーサーが吉田茂に日本が出した数字は杜撰だと言ったそうですが、吉田茂は「日本の統計調査が正しければ、日本は戦争に勝っていた」と言い放ったそうです。

いずれにしても、国民は皆、食料がなくて困っていたわけです。闇米は食べないと誓って配給米だけを食べていた裁判官が餓死したという話は、前にも申しました。銀座の柳を引っこ抜いて、そこに野菜を植えたりしていた時代です。

更に、3月には都会地転入抑制緊急措置令が公布されました。都会には食べ物がないから、地方から都会に来てはならないという命令です。

4月7日、そういう状況を受けて、米よこせ！のデモが起きました。怖いのは、デモ隊に対して警官が発砲しています。

5月には、上野のアメ横に米軍の横流し品が出回り、それを没収するために警官が300人出動して、トラック16台分の物資を抑えました。その時も警官が発砲する騒動になりました。そのことが新聞記事になっていますので、まだ新聞社はまともだと思います。

6月6日、農林省が国民に食料休暇を発表しています。10日間の食料休暇を与えるから、自分で食糧を調達しなさいというわけです。

7月には、国鉄が人員解雇を通告。第一次で75000人、第二次で52000人です。それに対して労働争議が始まっています。

9月には、前からある財閥、三井・三菱・安田に解散命令が出ました。財閥の解体です。

10月12日、墨塗りの教科書が始まりました。日本の伝統や歴史、偉人を教えるはいけないというGHQの命令で、子供達の教科書に墨を塗らせました。前にも申しましたが、上毛かるたを作ったのは浦野匡彦という先生ですが、その動機は墨塗りの教科書でした。浦野先生は満洲にいましたが、終戦で日本に帰ってきたら子供達が墨塗りの教科書を使っている。それを見て、かるたという形で子供達に郷土の文化や偉人を教えようと思いました。

以前、太田警察署の講演会でこの話をした際、参加者の中に、実際に墨塗りをした子供だったという方や墨塗りをさせた先生だったという方がおられ、驚きました。まだ60数年前の話ですから、生きている人がいても当然ですね。

12月には、吉田内閣打倒で皇居前に50万人が集まりました。南海大地震が起き、タバコの値上げでピース十円が倍額になっています。更に、六・三・三制が発表されています。

ということで、わずか六十数年前にこういうことが起きたわけです。干支学では60年周期で世の中は動くと考えます。

今年は、己亥（つちのとい・きがい）です。「知足」1月号にも書きました通り、以前から色々な危険が高まるとお話していますが、今年はそれが最高潮に達する。何が起きてもおかしくはないと思っていますので、60数年前の話を致しました。

ですから会社を営んでいる方は、少し難しいと感じるような知識・課題にも取り組んで戴くとよろしいでしょう。ピストル堤や強盗慶太のようなチャンスが回ってくるかもしれませんし、岡田屋がイオンになる時の基盤を築いたように、今は何もなくても、加速度がついて大いに発展する方も出て来る年回りです。逆に、今の状況に胡坐をかいている人は、急転直下で落ちていくかもしれません。いずれにしても、もの凄く揺れ動く年回りです。

ただし、この時必要なのは不易と流行です。不易は変わらざるもの、流行は新しい動きです。ごく当たり前が無意識にやっているものに、意識して新しいものを取り入れるとよろしいでしょう。健康法でも同じです。健康で長生きする人は、基本的な健康法を無意識のうちに実行しながら、尚且つ、常に新しい健康法を取り入れていく人です。

今年は大きな時代の転換期にちょうどぴったり合っているわけですから、この二つの動き（不易と流行）がリズムカルに行わなければなりません。自分自身の本来の力を信じて、当たり前のリズムをもう一度見直して、今年はこのリズムで行くのだと決めて動いていって、尚且つ新しいものを取り入れて戴く。新しいものに取り組むことがポイントです。その場合、目で見ただけ、耳で聞くだけでなく、自分が現地に行って体験しないとものにはなりません。

### 恒例の質問

恒例の質問を致しますので、主観でお考え下さい。

- 今年になって、比較的良い日が続いていると思う方
- 今年になって、比較的嘘をついていない方
- 今年になって、有難うと言い、有難うと言われることが多かった方
- 無意識のうちに健康法を実践している方

手が挙がる方が少ないようです。是非、無意識のうちに健康法を実践できるようになりましょう。

- 今年になって自分磨きをしている方

自分磨きをしないと、新しいものが取り入れられません。これも、無意識で出来ると素晴らしいですね。

○ 昨晚寝る時に、明日以降を過去形でイメージできた方

手が挙がる方が少しずつ増えて来たようですので、発表して戴く機会を設けるとよいと思います。

## 国の乱れ

では、論語の視点に参ります。本日は陽貨篇 4~5 です。

**【四】** し ぶじょう ゆ げんか こえ き ふうし かんじ わら いわ にわとり さ  
子 武城に之きて、弦歌の声を聞く。夫子莞爾として笑いて曰く、鶏を割く  
な ぎゆうとう もち しゆう こた いわ むかし えん こ ふうし き いわ くん  
に焉んぞ牛刀を用いんと。子遊 対えて曰く、昔者 偃や諸れを夫子に聞けり。曰く、君  
し みち まな すなわ ひと あい しょうじん みち まな すなわ つか やす しいわ にさんし  
子 道を学べば 則ち人を愛し、小人 道を学べば、則ち使い易しと。子曰く、二三子、  
えん げん これ ぜんげん これ たわむ  
偃の言は是なり。前言は之に 戯るのみと。

武城は魯国の南方の重要な位置にある城で、孔子の弟子の子游が城主になっています。この時、孔子は66歳、子游が21歳という二人の微笑ましい対話です。

孔子一行が武城に行くと、村人が琴を弾きながら詩を歌っているのが聞こえた。

孔子がにっこり笑って言いました。「鶏を裂くのに、なぜ大きな牛切り包丁を使うのかね」・・・こんな小さな町を治めるのに礼楽を使うとは大げさじゃないかと、子游をからかったわけです。

子游が答えました。「私はかつて先生から、『君子を目指す者が道を学べば、自然と民を愛するようになる。小人が道を学べば、温順になって使い易い』と教えていただきました。それで私は民に礼楽を教えているのです。」

孔子が言いました。「お前たち、よく聞きなさい。子游の言う通りだ。私が悪かったね」・・・子游が面と向かって真面目に反論してきたので、お供の弟子たちに、なるほど子游の言う通りだなあと謝っています。

**【五】** こうざんふつじょう ひ もつ そむ よ し ゆ ほつ しろ よろこ いわ ゆ  
公山弗擾 費を以て畔く。召ぶ。子 往かんと欲す。子路 説ばずして曰く、之  
な なん かなら こうざんし こ ゆ しいわ われ よ もの あに と  
く末きのみ。何ぞ必ずしも公山氏に之れ之かんやと。子曰く、それ我を召ぶ者、豈 徒な  
も われ もち ものあ われ そ どうしゆう な  
らんや。如し我を用うる者有らば、吾 其れ東 周を為さんかと。

公山弗擾は費の国（季氏の領地）の代官です。この時、孔子は50歳くらいです。

公山弗擾が費城に立てこもって反乱を起こし、孔子を招聘したので、孔子はそれに応え

ようとなりました。・・・当時は、魯の国の三桓が君子をないがしろにして私腹を肥やしていた酷い時代でした。公山弗擾が世の中を正そうと反乱を起こしたので、孔子はなかなか良いと思っているわけです。

子路が不服を唱えました。「おやめください。失敗することが分かっているのに公山弗擾の所に行かねばならない理由はありません。」

孔子が言いました。「私に国政を任せようと思って呼んでいるのだから、何か理由があるのだろう。私を必要とする者があれば、（天の命によって我を用いるのだから）私が出て行かないでどうするのだ。私が出向いて東周のように復興してみせるよ」・・・素晴らしいリーダーが出れば立て直すことが出来ると、歌舞伎の見栄を切ったような状況が浮かびます。

孔子が何とか自分の力で世の中を立て直そうと考えるくらい、それほど国が乱れていたというわけです

では、今の時代はどうでしょうか。新聞から見てください。

・**厚生年金「働く」と減額」廃止を** (2/15 読売新聞)・・・「論点」の記事です。在職高齢年金の仕組みについて、面白い書き方をしています。「60代前半の人が会社に勤め、厚生年金に加入した場合、給与（賞与込みで計算した月収）と厚生年金の合計が月28万円を超えると、超過分の半分が年金から差し引かれる。例えば本来支給されるはずの厚生年金が月10万円の場合、給与が18万円を超えると年金が減額される。給与が1万円増えるごとに年金は5000円減り、給与が38万円を超えると年金がゼロになる。減額されている人数は全国で約124万人、減額は総額で年約1兆1000億円にのぼる(2016年度)」とあります。如何に国民が酷い目にあわされているかと感じます。

・**超高級車販売 5年で国内3倍** (2/10 日経新聞)・・・販売価格が2000万円を超えるような高級車の販売が好調だという記事です。主な顧客層である富裕層が、どんどん買いたがっているということで、金融資産1億円を超える日本の富裕層人口は316万人という数字が書いてあります。

先ほどの年金を減額されている人数は124万人、富裕層は316万人いるという数字です。どういうことなのでしょう。

そういう人たちにお給料を払っている会社の発言を見てください。

パナソニック社長の津賀一宏さんに取材した記事(2/10 日経新聞)があります。なぜ

日本の家電メーカーは弱くなったのかという質問に対して、「社長になる前、米国の店に行ったら、消費者がうちのプラズマテレビとティッシュとバナナを同じワゴンに入れて買っていた。テレビが安いからプールサイドかガレージで使うというわけだ。それを見て、アホらしくてやってられるかと思った」と答えています。

「アホらしくてやってられるか」という表現は、普通は違った書き方にすると思いますが、そのまま記事にしているだけ日経新聞はまともだと思います。

津賀社長曰く、日本の消費者に受け入れられる製品は、良い商品だという認識で作っているが、その常識が間違っているのだな」と思ったそうです。そして、機能が優れ装備がリッチであればよいという「アップグレード型」はやめて、「アップデート型」に変えていくと言っています。こういう神経を持っているリーダーは良いと思いました。

東電ホールディングスの川村隆会長の取材記事（2/16 読売新聞）です。「原発事業は国が方向を決めて電気料金で投資を回収できる「国策民営」でやってきた。日本のエネルギーの自給率は9%と極端に低い。そういう状態で世界第3位の経済規模を維持するなんてのは至難の業です」と言っています。

こちらはそれなりの言葉で「至難の業」と書いてあります。面白いと思ったのは、「東電の社員は伝えるだけで満足し、相手にちゃんと伝わったという確認が無いことが多い。データは沢山出すけれど、それがどういう意味か受け取った側に伝わらない。意識を変えないといけない」と言っています。

では、世界に目を向けると、こちらもおかしいと感じる記事です。

・**徴用工 韓国に協議要求**（2/16 読売新聞）・・・徴用工について、日本から韓国に対していくら言っても上手くいくはずがありません。別の紙面に「文政権 日本の反発放置」と大きな見出しが出ています。文大統領は日本が反発して、何らかの反撃をしてくれるのを待っているわけです。そうすれば堂々と半日政策をとれますから、まともな協議などするはずがありません。レーダー照射事件についても同じです。

前にも申しましたが、韓国は北朝鮮と合体したいわけです。合体して北朝鮮が上になって、韓国の今の大統領はナンバー2に就くという水面下の話が既に出来ている。それが表面化してきています。その引き金を引くのに、日本の反発が欲しいわけです。韓国でも選挙がありますから、結果によってはどんどん進むだろうと思っています。

・**デジタル課税 論点公表**（2/16 読売新聞）・・・低税率国対策で「米グーグルなど

巨大IT企業に対する課税強化に向け、新たな国際ルール作りが本格化してきた」とあります。

こういう考え方は、ゴーン事件と直結しています。日本は、日本で稼いでいる人に対しては日本が課税するというルールです。しかし、フランスは183日ルールを採用しているから、ゴーンは税金対策として183日以上住まないようにしています。実際は、日本・フランス・ブラジルの3か国を中心に動いていますが、税金はオランダに納めています。それが表面化して、おかしいことになっているわけです。

ゴーン事件について、税金の視点からそれぞれの国の立場をみてみましょう。

フランスは自分の所に税金を納めてもらいたいと思っているわけです。マクロン大統領は支持率を上げるために日産とルノーと三菱を合併させたいと思っている、今まではそれをゴーンを通じて言っていたけれども、今は公に合併話を持ち出して日本政府と協議しています。ですからフランスの立場ははっきりしました。

イギリスはどうか。ゴーンの虚偽記載の文書には、給料を美術品等で貰いたいという一行があります。美術品をタックスヘイブンの国でオークションにかけて、マネーロンダリングをするわけです。イギリスはタックスヘイブンの植民地を抱えているから、タックスヘイブンを攻撃されては困る。又、イギリスには日産の工場があるから、それがフランスに移るのは阻止したいと思っている、それで日本・アメリカ連合にすり寄って来ている状況です。

中国は自分の国に日産の工場を作って欲しいから、ゴーンを盛んに持ち上げて、こちらにどうぞという動きをしています。ですから中国VS日本・アメリカ連合という図式で、税金や雇用に関して揉めています。

オランダは黙っていても自国に税金が入って来るスタイルだから、静観している状況です。

ゴーンの立場としては、日本の虚偽記載が裏付けされて裁判で負けると破産ですから、必死でしょう。ですから、今回弁護団を変えました。村木厚子さんの無罪判決を勝ち取った弁護士も入っています。

ということでゴーン事件の背後にあるのは、それぞれの国の課税の仕方、その新しいルール作りが世界的に動いています。世界が乱れて、新しい秩序を作ろうとしています。そのひとつの煽りで、ゴーンはハメられたのです。脇が甘く、世間に名前が知られているという点で、ちょうどいい生贄になっている。これがゴーン事件の背後です。



他に、気になった記事を申します。最近は新聞も色々な所でちよろちよろと政府の本音を引用しています。その見方も面白いし、役に立つと思っています。

・**高齢者も安心して使えるスマホ決裁**（2/11 日経新聞）・・・日経新聞の社説です。「政府は25年までにキャッシュレス決済の比率を4割に高める目標を掲げる」とあります。もっともっとキャンペーンをしてよいと思いますが、内緒でそっとやりますということを新聞がポロッと書いています。

・**1000万人来場 混雑防げ**（2/16 読売新聞）・・・オリンピックで1000万人の来場が予想されるけれども、その移動手段や交通対策をどうするか。招致の段階では、選手村から新国立競技場まで所要時間は10分ということだったけれども、実際には現在でも30分かかる。これが1000万人来たら、もっと酷いことになる。どうすればよいかという記事です。

別の新聞には、混雑する昼間は首都高の料金を倍にすればよいという記事がありました。その分、夜は割安にするというわけでしょう。首都高速の混雑緩和については、多分そうなるのではないのでしょうか。

論語から時事評論を申しました。日本の国が大分乱れている。世界も乱れている。その中で収集のつかないものが沢山あるということで、例として新聞記事を取り上げました。

それらを解決するためには、中斎塾フォーラムで学んでいる「足るを知る」がポイントです。今、角を突き合わせている問題も「ほどほど」というキーワードでいけば、それほど酷くはならないでしょう。ゴーン事件の各国間の思惑のぶつかり合いも、少しは減ると思います。

### **悟りについて - 紹介書籍**

最後に、本日のテーマ「何故、自分はこの世に生を受けたか」を考えるのに、役に立つ本を紹介します。島田明德さんの書かれた『「悟り」の意味』（地湧社）です。煎じ詰めると、自分の心の中にももの凄いパワーを秘めたものがある。唯識学の阿頼耶識で、種を蒔いたものは必ず実現するというわけですが、そのためには土壌が良くなければいけません。それから自分自身が本来持っているパワーを自覚することが必要です。自覚をすることが「悟り」です。悟った人というのは、自分の本来持っているパワーを自覚した人です。

それは、どのようにして悟れるかということ、恒例の質問でも申し上げたのと同じで、無意識がキーワードです。自分を空っぽにすると、面白いほど色々な知識が入り、智慧が生まれます。是非、知識を高めて、そこから知恵を生み出して戴きたいと存じます。